

戦後文学・文化研究会

代表者：安藤陽平（文学研究科D3）

I. 研究テーマ・目的

アジア・太平洋戦争後の日本文学・文化に関する知識を協働的に深める

本研究会は、一昨年度より研究会活動支援制度を利用してはじめられ、今年度も活動を継続してきた。研究会の主たるテーマ・目的は次のようなものである。

日本戦後文学・文化研究はこれまでに様々な形で蓄積されてきた。それを継承する形で、近年では新たな観点・手法から、従来の見方に刷新を迫る画期的な論考が発表されはじめている。

本研究会では、上記のような現在の研究状況に対する知識・理解を協働的に深めるため、戦後文学・文化を研究するうえで必読となる書籍を対象に読書会を開催した。あわせて、読書会での議論を踏まえ、各自の研究成果を発表する場を設けた。

参加メンバーは、みな何らかのかたちで戦後文学・文化に関わる研究をしている。本研究会は、上記の活動を通して、後の戦後文学・文化研究の担い手になるための礎を築く場の構築を目的とした。

II. 主な活動

① 戦後文学・文化研究における必読文献を対象とした読書会

対象テキストを読んだなかでよく理解できなかった点、批判すべき点を読書会の場で他者と共有することにより、一人で読む以上の理解を得ることができた。

② メンバーによる研究発表

①を通して得た知識を基にした、参加メンバーの研究発表。
今年度は3名の学会発表をおこなった。

- ・森祐香里「『肉体文学』の再検討に向けて」
- ・安藤陽平「安岡章太郎『陰気な愉しみ』について」
- ・大西洋平「坂口安吾『淫者山へ乗り込む』について」



山本昭宏

『大江健三郎とその時代』



金志映

『日本の〈戦後〉と

変奏される〈アメリカ〉』

III. 研究会の成果

参加メンバーによる学会発表・論文掲載

【論文】

- ・安藤陽平「安岡章太郎『海辺の光景』論」『論究日本文学』2019・12
- ・金昇淵「The fictional-Reality of actual-Virtuality: Yoko Tawada's Kentōshi (The Emissary)」Doug Slaymaker編『Tawada Yoko: On Writing and Rewriting』Lexington Books、2019・12

【学会発表】

- ・安藤陽平「安岡章太郎『陰気な愉しみ』論」日本近代文学会・秋季大会（於：新潟大学五十嵐キャンパス）2019・10
- ・大西洋平「坂口安吾『淫者山へ乗り込む』論」日本近代文学会・秋季大会（於：新潟大学五十嵐キャンパス）2019・10
- ・西澤忠志「明治20年代の西洋音楽に対する聴き方の変化とその思想的背景」日本音楽学会第70回全国大会 2019・10
- ・西澤忠志「日本における音楽批評の出版メディアでの位置づけ」東洋音楽学会第70回全国大会 2019・11
- ・金昇淵「3.11を架橋する『移動』の問題をめぐって——多和田葉子『雲をつかむ話』を中心に」Lire la littérature japonaise à la lumière de l'après 11 mars（於：フランス国立東洋言語文化学 INALCO）2019・12